LA 通信

第 584 回：論文執筆の取り組み方（1 回目）（MS）

みなさんこんにちは、火曜日担当の MS です。今回の LA 通信は、「論文執筆の取り組み方」と題して、論文執筆の方法について紹介いたします。とはいえ、一度では扱いきれないトピックなので、何回かに分けて執筆する形になると思います。

1 回目の今回は、論文執筆をどのように進めていくかについてのおおまかな流れを紹介いたします。なお、私が紹介する方法に従ったとしても、必ずしも評価の高い論文が書けるという保証はいっさいありません。あくまで自分の経験上「これに従えば評価の対象になる最低限の論文が書けるかも」という、経験則に基づくおすすめの取り組み手順（英：heuristics）になります。悪しからずご容赦ください。以下にその手順を提示します。

1. 論文のテーマを決める。すでに教員から与えられている場合は、それに従う。
2. テーマの中で関心のある話題または現象を見つける。なぜその現象が重要で、注目するに至ったか、それを扱うことの目的と意義を明らかにする。
3. その現象について、先行文献でどのような主張がされているか/されていないかを確認する。先行文献の批判をする際に、反例を提示するだけでは不十分なので注意。むしろその反例を用いることで、相手の主張のどこに問題があるか、どう改善できるかを親身になって考える方がより望ましい。
4. その現象について、自分なりの疑問点または仮説を提起する（例：なぜ、何のために、どのようにその現象が起こっているのか）。
5. 先行文献を踏まえて、自分ならどう考えるか戦略を立てる。すなわち研究の方法論を考える。使える理論はあるか？既存の理論を自分なりに組み合わせるか?それとも一から自分で考案するか?
6. そのためにどのようなデータが利用できるかを考えて、データを収集する。データに貴賤なし。しかしデータ上の制約と収集方法を常に意識する。
7. データを体系的に分析して、何が主張できるかを考える。仮説がある場合は検証する。
8. 自分の論文で何が主張できたか、または主張できなかったかを考える。主張できなかったことをもとに、どのような将来的な研究課題が残されているかを考える。

第 584 回：論文執筆の取り組み方（1 回目）（MS）

9. 字（語）数、誤字脱字、引用形式、参考文献の確認をする。所定の体裁（サイズ、余白、ページ数・ヘッダーの有無）、媒体（紙媒体か電子媒体）、手段（大学 Outlook メール、GAIDAIPASS、手渡し等）で、かならず期限内に提出する。

必ずしもこの順番に従う必要はありませんが、執筆を進めていくためには最低限 1 と 2 が必要になるでしょう。それ以降については、やりやすい順番で進めていくことをおすすめします。先行文献の批判から始めてもいいですし、データの収集から始めてもいいでしょう。ですが、先を急ぎすぎるのも考えものです。いずれにせよ、コツコツと進めていくのがおすすめです。

次回以降は、今回提示した執筆の手順を踏まえて、それぞれの段階におけるおすすめの手順や手段について論じていこうと思います。それでは。